



第48期

2024 年度 環境経営レポート

対象期間： 2024 年 8月1日 ~ 2025 年 7月31日



作成日： 2025 年 11月1日

contents

目次	P1
環境経営方針	P2
事業概要	P3
実施体制	P4
環境経営目標及び実績①（本社・第二工場）	P5
環境経営目標及び実績②（名取工場・全体）	P6
二酸化炭素排出量	P7
取組結果とその評価①（電力）	P8
取組結果とその評価②（燃料）	P9
取組結果とその評価③（廃棄物リサイクル・その他）	P10
法令順守の確認／代表者によるコメント	P11
	P12

«環境経営方針»

«環境理念»

私たちは、地域環境の保護と事業活動の両立を基本理念として、地域社会への貢献に努めます。

«基本方針»

- ・私たちは「花巻の自然と雇用を守ります」をスローガンに、社員一人ひとりが環境への配慮を心がけると共に、適正な事業拡大を両立し、地域社会に貢献いたします。
- ・全てのステークホルダーと協力し、環境に配慮した事業活動を実施いたします。

«行動指針»

1. 事業活動によって生じる環境負荷の低減、及び資源の有効活用を環境目標に定め、定期的に見直し、継続的な改善を行います。
特に次の事項を重点的に取り組みます。
 - ①電気使用量、燃料使用量の削減
 - ②紙類使用量の削減
 - ③不良品発生量の削減
 - ④産業廃棄物の分別、リサイクルの推進
 - ⑤水資源の現状維持
 - ⑥グリーン購入の推進
 - ⑦化学物資の適正使用と管理
2. 環境関連法を遵守し、環境汚染の防止や環境保全の継続的改善を図ります。
3. 「地球にやさしい」、「環境保全につながる」活動には積極的に参加します。
4. 環境への前向きな対応が更なる業務拡大へのチャンスと捉え、全員で取り組みます。
5. 取引先とも協力し、互いに環境に配慮した事業活動の展開を実施します。
6. 本方針は全従業員に周知するとともに、定期的な環境教育などを実施します。
7. 本方針は社外からの要求や、その他必要に応じて開示致します。

制定：2007年6月1日
改定：2013年2月26日 第2版
改定：2014年2月24日 第3版
改定：2025年11月1日 第4版

株式会社伸和光機

代表取締役 豊川 正仁

《事業概要》

1 事業者名及び代表者

株式会社伸和光機 代表取締役 豊川 正仁

2 所在地

		工場面積
本 社	〒025-0084 岩手県花巻市桜町四丁目259番地 1 TEL:0198-22-2131 FAX:0198-23-5101	2759.34m ²
第二工場	〒025-0015 岩手県花巻市東十二丁目19-10-5 TEL:0198-21-3340 FAX:0198-21-3341	531.40m ²
名取工場	〒981-1221 宮城県名取市田高字原345 TEL:0198-22-2131 FAX:0198-23-5101	758.60m ²

3 環境管理責任者及び事務局

氏名：菅野 篤史 役職：管理部長 e-mail : a-kanno@s-kouki.co.jp

4 事業内容

- ① 各種製造、組立（精密機器・業務用機器・医療機器・光学機器等）
- ② 部品購買、部品加工
- ③ 機械設計
- ④ 組込システム設計、ソフトウェア開発

5 事業規模 (48期実績)

- ・ 法人設立 1977年8月
- ・ 資本金 3,500万円
- ・ 従業員数 88 名（期末時点）

6 適用事業範囲

全所在地を認証範囲とする。 ※請負先は請負先のEMSに従う

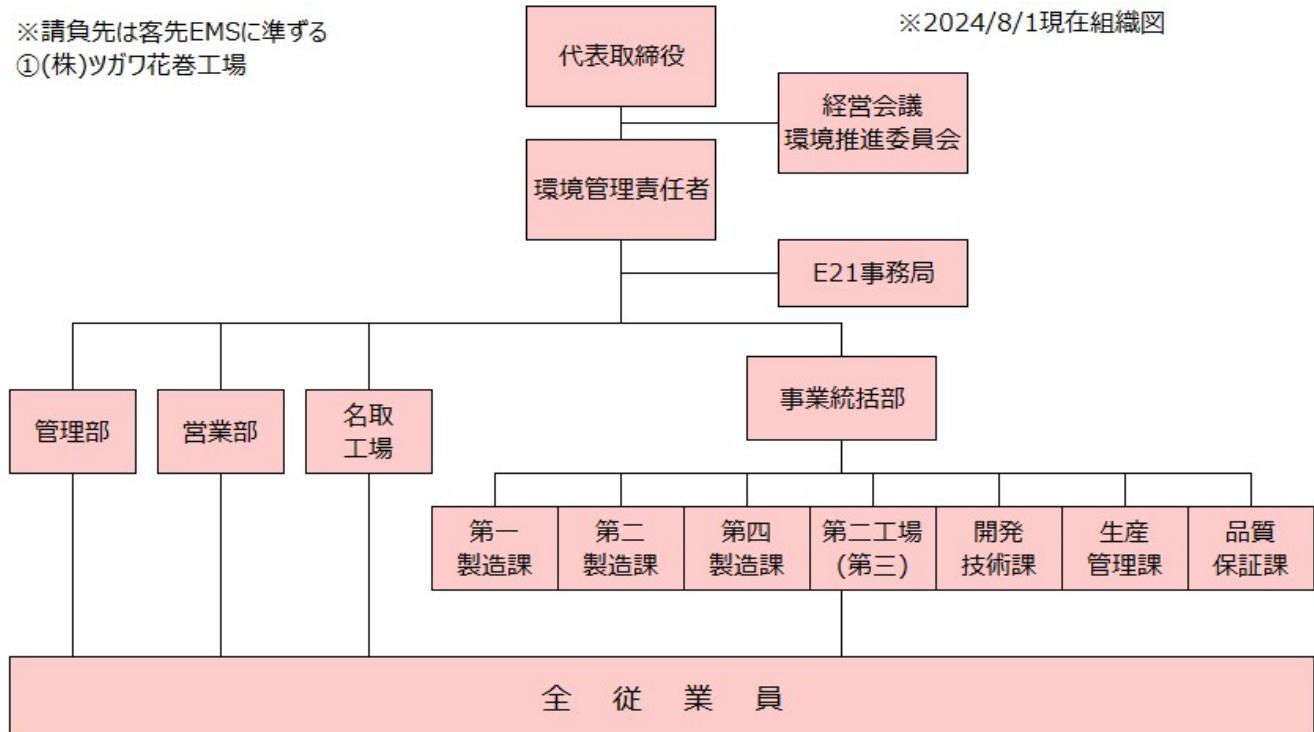
7 沿革

1977	創業
1977.1	有限会社に組織変更
1984.1	株式会社に組織変更
1984.1	現在地（花巻市桜町）に移転
2008	エコアクション21取得
2008	本社工場を増築
2018.1	資本金3,000万円に増資
2018.1	IS9001認証取得
2018.1	名取工場を開設
2023	本社工場を増築
2023.1	資本金3,500万円に増資

《実施体制》

1 組織概要

※請負先は客先EMSに準ずる
①(株)ツガワ花巻工場



2 役割・責任・権限表

役職	役割と権限
代表取締役	①環境経営方針の策定 ②経営資源の準備 ③全体の評価と見直し・指示 ④環境経営レポートの承認 ⑤環境目標及び環境活動計画の承認 ⑥環境管理責任者の任命 ⑦課題とチャンスの明確化 ⑧実施体制の構築
経営会議	①環境目標及び環境活動計画の結果確認 ②EA21に関する審議、その他関連事項への対応協議
環境管理責任者	①環境経営システムの構築、実施、管理 ②環境活動レポートの作成 ③環境活動実績の確認、評価 ④その他EA21推進に関する業務 ⑤代表者への実績報告 ⑥教育訓練の計画、実施
各部署長	①環境目標及び環境活動計画の結果確認 ②EA21に関する審議、その他関連事項への対応協議
従業員	①環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚し、能力向上に努める。 ②決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。

《環境経営目標及びその実績》

※基準年(2023年)に対し実績が目標を達成した場合に評価を○とし、未達成の場合は×とする

「実績値／基準値×100%」にて達成率を算出

① 本社

項目	単位	基準年 2023年	実績 2024年	目標 2025年	評価	※目標 2024年
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	96,633	89,684	86,993	○	3%削減 (97.0%以下)
電力	kwh	165,789	86.1%	2%削減	○	3%削減 (97.0%以下)
			142,750	139,895		
灯油	L	1,203	183.0%	1.5%削減	×	3%削減 (97.0%以下)
			2,201	2,168		
軽油	L	4,700.1	99.9%	2%削減	×	3%削減 (97.0%以下)
			4,696.8	4,603		
ガソリン	L	1,690.6	142.0%	2%削減	×	3%削減 (97.0%以下)
			2,400.5	2,352		
ガス(プロパン)	m ³	—	—	—	—	—
水資源(上水)	m ³	852	67.0%	2%削減	○	3%削減 (97.0%以下)
			571	560		

② 第二工場

項目	単位	基準年 2023年	実績 2024年	目標 2025年	評価	※目標 2024年
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	31,549	23,673	22,963	○	3%削減 (97.0%以下)
電力	kwh	34,057	66.3%	2%削減	○	2%削減 (98.0%以下)
			22,564	22,113		
灯油	L	5,778	82.2%	2%削減	○	10%削減 (90.0%以下)
			4,751	4,656		
軽油	L	469.4	98.1%	2%削減	○	3%削減 (97.0%以下)
			460.3	451		
ガソリン	L	—	—	—	—	—
ガス(プロパン)	m ³	3.9	—	—	—	—
水資源(上水)	m ³	139	105.0%	2%削減	×	3%削減 (97.0%以下)
			146	143		

《環境経営目標及びその実績》

※基準年(2023年)に対し実績が目標を達成した場合に評価を○とし、未達成の場合は×とする

「実績値／基準値×100%」にて達成率を算出

項目	単位	基準年 2023年	実績 2024年	目標 2025年	評価	※目標 2024年
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	61,558	56,759	55,056	○	3%削減 (97.0%以下)
電力	kwh	106,618	92.0%	3%削減	○	3%削減 (97.0%以下)
			98,064	95,122		
灯油	L	—	—	—	—	—
軽油	L	2,681.1	87.5%	2%削減	○	3%削減 (97.0%以下)
			2,345.7	2,299		
ガソリン	L	758.2	254.8%	2%削減	×	3%削減 (97.0%以下)
			1,932.2	1,894		
ガス(プロパン)	m ³	—	—	—	—	—
水資源(上水)	m ³	308	108.8%	2%削減	×	5%削減 (95.0%以下)
			335	328		

④ 全体

項目	単位	基準年 2023年	実績 2024年	目標 2025年	評価	※目標 2024年
客先クレーム件数	件	9	9件以下	5件以下	○	9件以下
			6	5		
一般廃棄物	kg	3,776	140.4%	2%削減	×	5%削減 (95.0%以下)
			5,303	5,197		
産業廃棄物	kg	5,290	136.4%	2%削減	×	5%削減 (95.0%以下)
			7,217	7,073		
リサイクル (再資源化)	kg	1,140	883.6%	前年比2%増	○	10%増加 (110%以上)
			10,073	10,274		
社会貢献	件	3	166.7%	前年と同じ	○	継続 (100%以上)
			5	6		
化学物質	kg	21	13		—	—

※PRTR法該当化学物質については、使用量が全て10kgのため購入量のみ管理

《二酸化炭素の排出量 (kg-CO₂) の推移》

当年度 (2024年度)

前年比削減率 10.3%

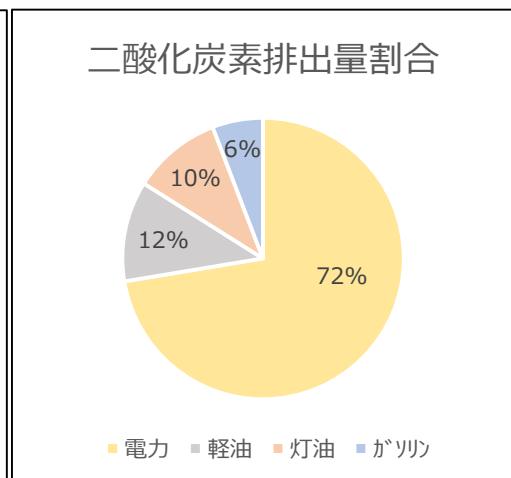
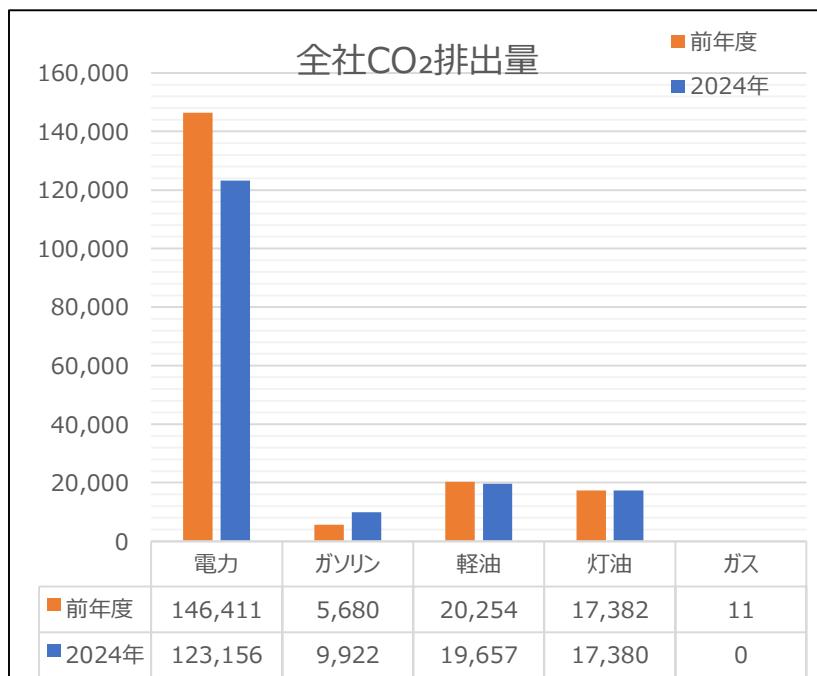
排出係数	※(R6年)	2.29(R5年)	2.62(R5年)	2.5(R5年)	2.99(R5年)	
単位	kg-CO ₂ /kwh	kg-CO ₂ /L	kg-CO ₂ /L	kg-CO ₂ /L	kg-CO ₂ /kg	
	電力	ガソリン	軽油	灯油	ガス	合計
本社	66,379	5,497	12,306	5,503	0	89,684
第二工場	10,590	0	1,206	11,878	0	23,673
名取工場	46,188	4,425	6,146	0	0	56,759
合計	123,156	9,922	19,657	17,380	0	170,121

※本社 (日本テクノ) : 0.465

第二工場・名取工場 (東北電力) : 0.471

前年度 (2023年度)

排出係数	0.468	2.32	2.58	2.49	2.99	
単位	kg-CO ₂ /kwh	kg-CO ₂ /L	kg-CO ₂ /L	kg-CO ₂ /L	kg-CO ₂ /kg	
	電力	ガソリン	軽油	灯油	ガス	合計
本社	77,589	3,922	12,126	2,995	0	96,632
第二工場	15,939	0	1,211	14,387	11	31,548
名取工場	52,883	1,758	6,917	0	0	61,558
合計	146,411	5,680	20,254	17,382	11	189,743



【考察】

二酸化炭素排出量を前期比8.8%削減致しました。

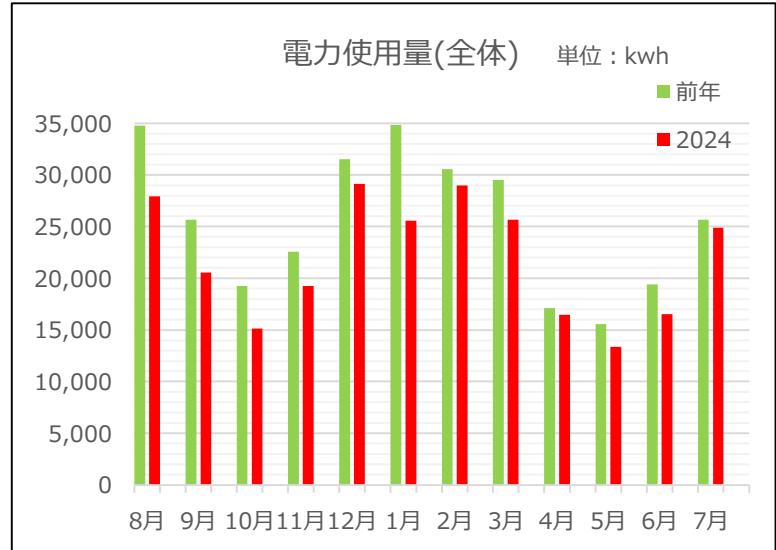
全体の約7割を占める電力削減に最も注力した結果と考えます。

《環境経営計画の取組結果とその評価(電力)》

① 電力使用量の削減

活動計画内容	達成状況		
	本	二	名
室内温湿度管理の徹底	○	○	○
蛍光灯のLED化	○	-	○
消灯の徹底	○	○	○
電力モニターによるデマンド値管理	○	○	-
窓の遮熱対策	○	○	○
エアコンのタイマー設定	○	×	×
消灯自動化	○	-	-
電気使用量の見える化/点灯時間の管理	○	×	×

達成状況：「○」達成、「×」未達成、「-」未計画



取組結果とその評価、次年度の取組内容

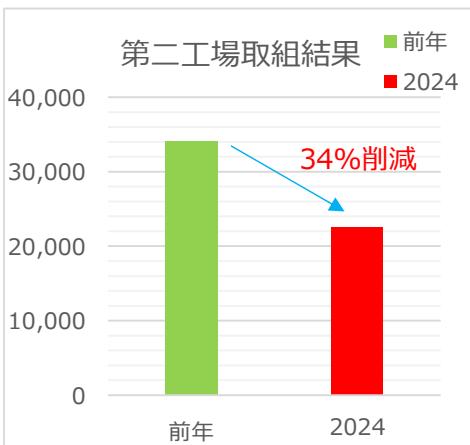
【取組結果】

2024年度、電力使用量の削減では2023年度比、本社工場14%削減、第二工場34%削減、名取工場8%削減、全体では14%の削減ができた。全体の約73%を占める環境負荷の一番大きい電力使用量を削減することが課題であり、今年度も空調設備(エアコン)使用量のコントロールを重視し継続して取り組んだ。

- ・全社各エリアに温湿度計を設置し、遮熱シートで室内温度をコントロール（継続）
→ 温度・湿度の変化量を監視し、データ測定
- ・使用電力の超過を防ぐため毎日のデマンド監視。冬場の朝方はデマンド値が高くなる傾向があるためエアコンタイマーを活用し抑制（継続）
- ・稼働時間外の使用電力の調査を行い、待機電力を抑えた。ノートPCの電源オフや主電源オフ等の実施効果として、対策前は平均150kwhに対し、対策後は平均100kwhで50kwhの待機電力を削減できた。
- ・全社電力使用量の見える化を行い、節電に対する意識向上を図ることができた。



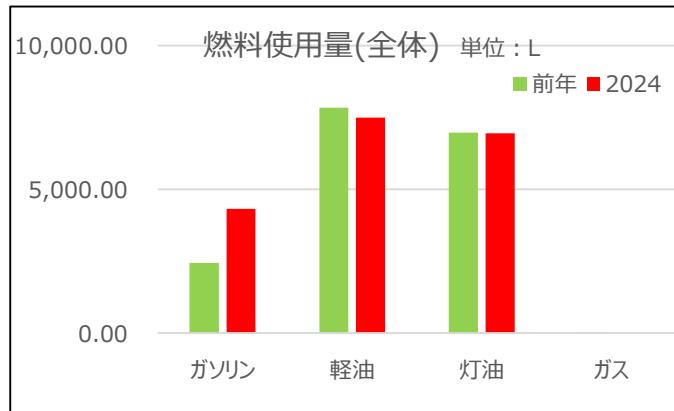
本社工場を中心とした節電活動に取り組んできたが次年度では第二工場・名取工場も同様に活動し、電力でのCO₂削減にさらに力を入れ取り組んでいく。



《環境経営計画の取組結果とその評価(燃料)》

② 燃料（ガソリン・軽油・灯油・ガス）

活動計画内容	達成状況		
	本	二	名
【車】エコドライブの促進	○	○	○
【車】効率の良いルートの運行	○	○	○
【車】客先への訪問集約（用事をまとめる）	○	○	×
【灯油】室内温度の管理（特に冬期間）	○	○	×
【灯油】社内の環境整備（遮熱断熱）	○	×	×
【ガス】電気温水器への切り替え	○	○	-



達成状況：「○」達成、「×」未達成、「-」未計画

取組結果とその評価、次年度の取組内容

【取組結果】

（車両燃料） 本社→業務拡大等に伴いガソリン使用量が増加している。

第二工場→前年度と比較し大きな変化はなし。

名取工場→営業活動の増加や客先作業のため、ガソリン使用量が増加している。

業務拡大に伴う使用量の増加は避けられないため、改めて走行経路の確認やムダ走りのないように社内で徹底する。

（灯油） 冬期間の暖房機の燃料として使用。

本社工場→冬場の電力及びデマンド削減のために、旧工場にFF式ストーブを追加した事に伴い使用量が増加している。

電力の削減効果を見ると、うまく組み合わせて実施する事が重要と考え、継続して実施する。

第二工場→窓への断熱シートを併用し灯油使用料の削減を実施している。

（ガス） 唯一第二工場で使用していたガスを2024年3月に廃止し、電気温水器に切り替え。全社的にガスは使用しない体制とした。

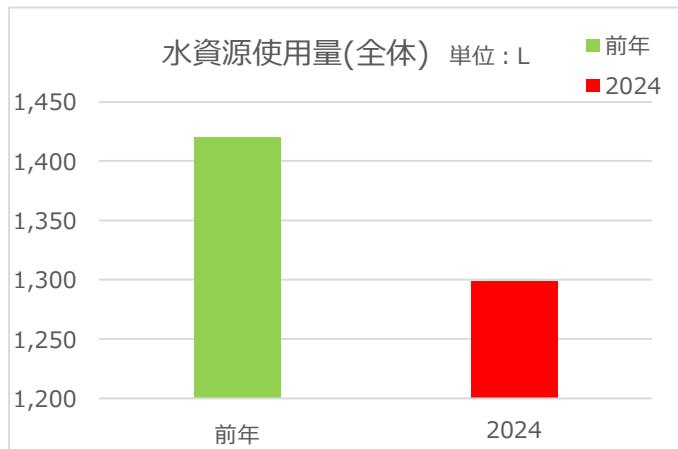


《環境経営計画の取組結果とその評価(燃料)》

③ 水資源

活動計画内容	達成状況		
	本	二	名
節水シールの掲示	○	○	○
漏水の確認(タンクパッキンの交換)	○	○	○
流水音の設置	○	○	○

達成状況：「○」達成、「×」未達成、「-」未計画



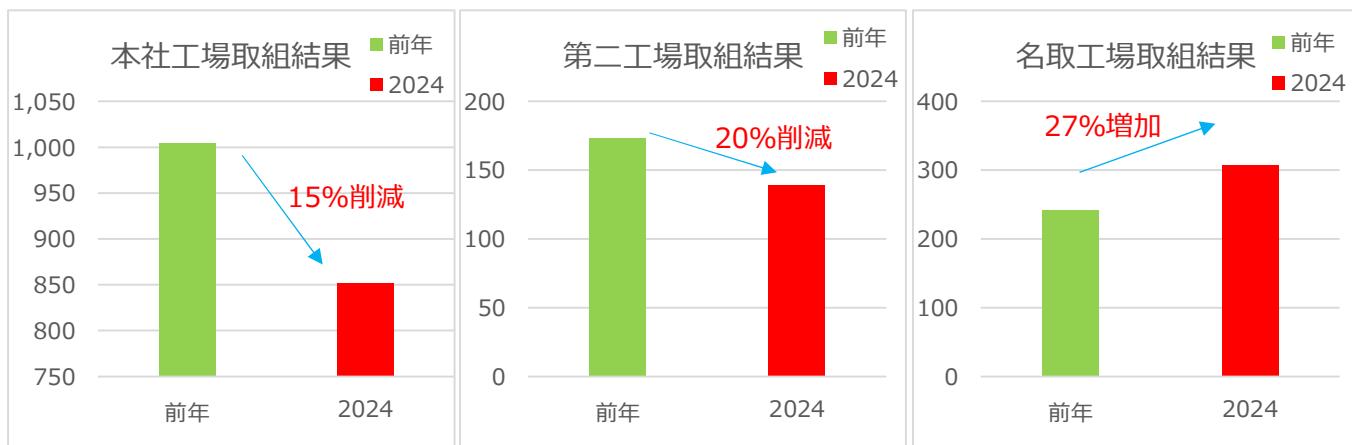
取組結果とその評価、次年度の取組内容

【取組結果】

全社に流水音の設置や節水表示を行い、使用量の削減につなげることができた。トイレに流水音を設置することでトイレの水を流す行為が1回で済むようになり、1回あたり約8L分の水の使用を削減でき、節水効果が得られた。

本社工場⇒老朽化によるトイレの水漏れがあったためタンク内のパッキンの交換を行った。

全社基本的にトイレの使用量に比例して水の使用量も増減する事から、人が増加する事での使用量増加は致し方ない。

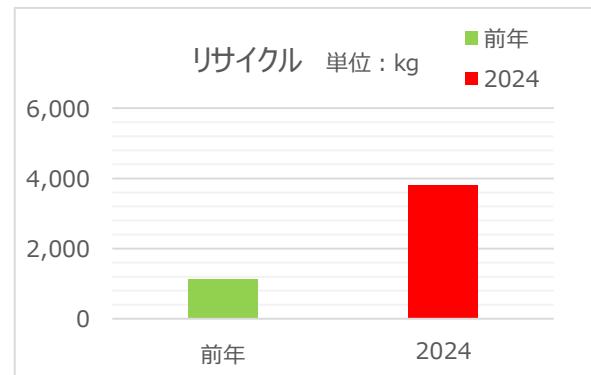
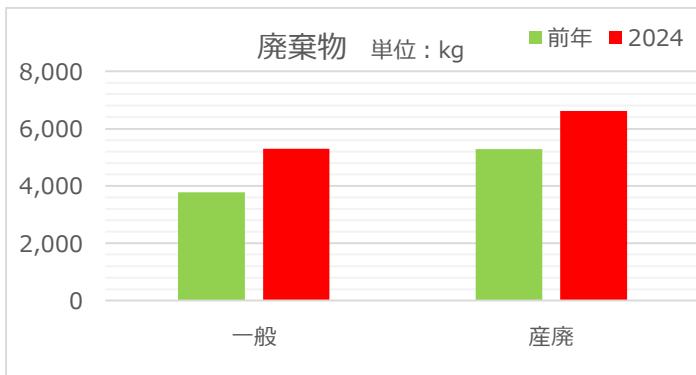


《環境経営計画の取組結果とその評価(廃棄物リサイクル・その他)》

④ 廃棄物・リサイクル

達成状況：「○」達成、「×」未達成、「-」未計画

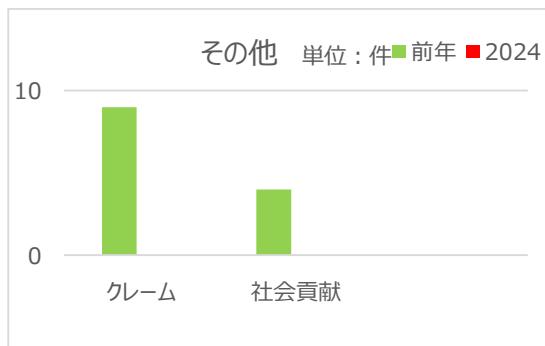
活動計画内容	達成状況			取組結果とその評価、次年度の取組内容
	本	二	名	
紙ベースの運用削減	○	○	○	改善活動の一環としても請求書のPDF化や社内文書発行のデータ化を進めている。リサイクルや分別等は継続的に行っている。ペットボトルのキャップの寄付を行っている。また分別方法がわからないものなどは不用意に捨てずに、専門業者を定期的に活用し、再利用漏れが無いように活動している。
不用紙・段ボールのリサイクル徹底	○	○	○	
ゴミ分別の徹底	○	○	○	
梱包材の再利用、通い箱の有効活用	○	○	○	
専門業者の有効活用	○	○	○	
有価物の分別収集	○	○	○	



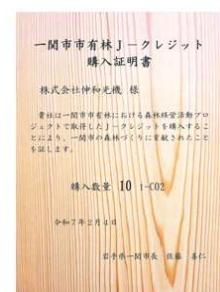
⑤ その他（クレーム件数・社会貢献）

達成状況：「○」達成、「×」未達成、「-」未計画

活動計画内容	達成状況			取組結果とその評価、次年度の取組内容
	本	二	名	
【品質】5S活動の推進	○	○	○	全社で5S・生産性向上に関しての改善活動を実施。今期は全社として7,500千円の改善効果となった。今後も継続して活動していく。
【品質】工程内不良の把握	○	○	×	
【品質】クレームに対する対応の水平展開	○	×	×	地域貢献活動に関しては、地域清掃活動として、工場周辺のゴミ拾いを実施。また、県内事業者とカーボンオフセットの取引を実施（かまいしDMC・一関市市有林J-クレジット）
【貢献】草刈り活動への参加	○	-	-	
【貢献】ペットボトキャップ寄付の活動	○	-	-	
【貢献】障がい者雇用の継続	○	-	-	
【貢献】地域清掃活動の実施	○	-	-	
【貢献】カーボンオフセットの実施	○	-	-	



【地域清掃活動の様子】



《環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無》

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次のとおりです。

適用される法規制	適用される事項
廃掃法	一般及び産業廃棄物の適正な処理、マニフェストの交付、マニフェスト交付状況の届け出
容器包装リサイクル法	段ボール、不用紙、プラスチック製容器包装のリサイクル
PCB特別措置法	PCB廃棄物（使用中含む）の保管状況の届け出、処分期間内の処分
電気事業法	電気工作物の保安・維持
騒音規制法・振動規制法	コンプレッサーの届け出、コンプレッサー室の音漏れ防止
労働安全衛生法	有機溶剤の取り扱いについて
市の条例・消防法	騒音・振動について、少量危険物（灯油）の取り扱いについて

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、法規制は遵守されておりました。また、過去3年間関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟について、問題ありませんでした。

代表者による全体評価・翌年度の活動方針

48期（2024年8月～2025年7月）については、基準年47期より1年経過し、結果として二酸化炭素排出量を8.8%削減することができました。これもひとえに、会社内で環境に対する意識が高まり、自然と一人一人が省エネに対する活動を積み重ねた結果であると考えます。

業務拡大に伴い二酸化炭素排出量が増加することはやむを得ないと考えておりましたが、本社工場増築以降は売り上げが堅調に推移しているにも関わらず、二酸化炭素排出量は順調に削減できています。大手メーカーとの直接取引も増加している中で、環境に配慮しているかどうかも取引する際の重要なポイントとなっている昨今において、エコアクション21による「環境経営」を長年継続した成果がまさに今花開いていると改めて実感しております。

現状に甘んじることなく、引き続き環境に配慮した活動を行ってまいります。

翌年度49期は省エネはもちろんですが、カーボンオフセットなどにも力を入れ、二酸化炭素排出量の削減を更に推進しながら、業務拡大に努めて参ります。